

# 1. 野生イノシシ対策

生イノシシの感染確認 区域の拡大防止を 底するため、関係省庁が連携し、以下の対策を着実に実施。

## 取組の内容

### (1) 捕獲の強化

○

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

○

ICT

### (2) 経口ワクチン散布

○

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

○

\_\_\_\_\_

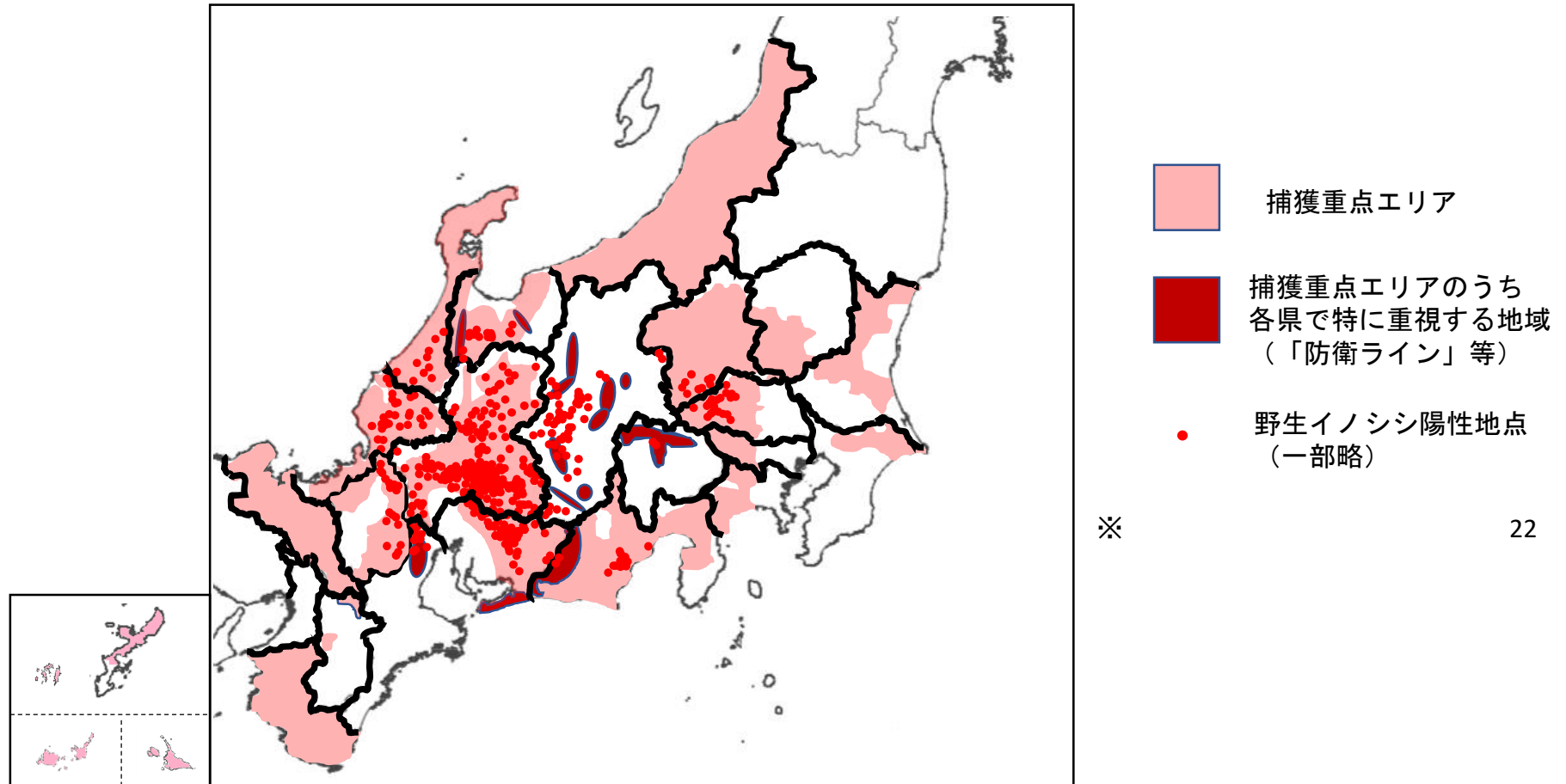
○

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



- CSF陽性の野生イノシシが確認されている県及びその隣接県等の22都府県において、養豚場の周辺や、イノシシの移動制限に重要な地域を**捕獲重点エリア**に設定。



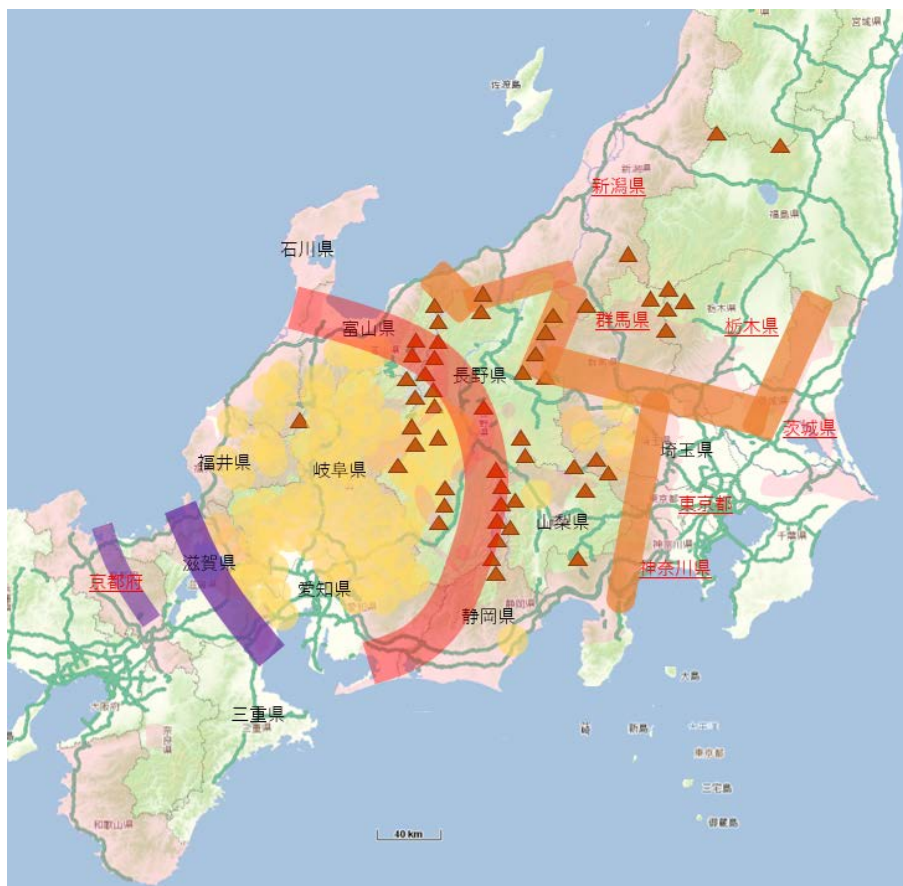
# 野生イノシシに対するワクチンの散布について

1.5

1.6ml

写真: ©Federal Ministry of Food and Agriculture, Germany

# 野生イノシシ向け経口ワクチンベルト構想の進捗について



■ : ワクチンベルトのイメージ(冬期散布)

■ : 既存のワクチンベルトのイメージ

● : 野生イノシシ陽性エリア

● : 捕獲重点エリア

▲ : 山(2,000m以上)

○ 2019年9月以降、日本全国へのウィルス拡散を防ぐためのワクチンベルト構想に基づき、散布を実施。  
(同年3月以降、計20万個以上の経口ワクチンを散布)

○ 更に、同年12月以降の冬期散布においては、計18県で、約17万個以上のワクチンを散布。  
ベルト内でも、ウィルス濃度低減のための散布を継続。

東ベルト: 新潟県、群馬県、栃木県、茨城県、東京都、神奈川県、石川県、長野県、静岡県、愛知県、富山県

西ベルト: 福井県、滋賀県、三重県、京都府

ベルト内: 岐阜県 ※下線は、新規のベルト対象県。

この他、埼玉県、山梨県で、局地的散布。

○ 抗体付与には一定の時間を要することを踏まえ、専門家による効果検証を経つつ、ベルト構想を改善しながら、散布を実施。

# 経口ワクチン散布の目標について

- 経口ワクチンは、野生イノシシにCSFの抗体を付与し、環境中のウイルスの濃度を下げることができるため、防疫措置上、重要
- 欧州委員会のガイドラインにおいては、40～50%の野生イノシシに抗体が付与されればCSFの感染拡大を止めることができ、60%でCSFを撲滅可能とされている。
- 我が国においては、2019年3月より経口ワクチンの散布を開始。散布後は、サーベイランスとして遺伝子検査及び抗体検査を実施し、抗体付与の状況を把握

## ○欧州における経口ワクチンの評価、考え方

### ●イノシシにおけるCSFの防疫措置に係るガイドライン（欧州委員会、2010年6月）

- ・CSFの感染拡大を止めるためには、40%～50%のイノシシが抗体を保有する必要。
- ・確実にCSFを撲滅するためには、60%以上のイノシシが抗体を保有する必要。

### ●Oral immunization against CSF: onset and duration of immunity（2010）ほか

- ・経口ワクチン摂取後、10日後には抗体が付与。
- ・抗体の効果は、少なくとも10ヶ月間、おそらくは生涯持続。

## ○欧州の経口ワクチン使用実績

| 国名      | ワクチン使用時期    |
|---------|-------------|
| ドイツ     | 1993年～2012年 |
| ルクセンブルク | 2003年～2005年 |
| フランス    | 2004年～2010年 |
| スロバキア   | 2005年～2010年 |
| ブルガリア   | 2005年～2015年 |
| ルーマニア   | 2007年～2011年 |
| ラトビア    | 2013年～2015年 |